

令和2年
3月24日

病害虫発生予報 4月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

**機械での転落・転倒など農作業事故が増加する季節です。
危険箇所を確認し、余裕を持った作業を行いましょう。**

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：ハダニ類	1
促成ピーマン：斑点病	1
促成・半促成ピーマン：アザミウマ類	2
促成トマト：灰色かび病	2
促成キュウリ：べと病	3

【その他の病害虫】

イチゴ，促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ，春ハクサイ，春レタス	4
------------------------------------	---

【防除所レポート】

大麦の出穂期が早まっています。麦類赤かび病の防除を適期に行いましょう！	5
チャバネアオカメムシの越冬状況（令和2年2月調査）	7

II. 今月の気象予報 8

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/>
フェロモントラップデータ随時更新中

<HP QRコード>



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月中旬現在、寄生葉率(本年値 20.4%, 平年値 24.1%)は平年並、発生地点率(本年値 40%, 平年値 70%)は平年よりやや低い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を選択する。

促成ピーマン

1. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 3月中旬現在、発病度^{*}(本年値 10.3, 平年値 6.6)は平年並～やや高く、発生地点率(本年値 50%, 平年値 46%)は平年並である。

※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、整枝、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ③ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を選択する。

促成・半促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 3月中旬現在、促成ピーマンにおける寄生花率（本年値 76.0%，平年値 50.0%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 100%，平年値 69%）は平年並～やや高い。
- ② 3月中旬現在、半促成ピーマンにおける寄生花率（本年値 47.5%，平年値 25.3%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 100%，平年値 81%）は平年並～やや高い。
- ③ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルスを媒介するので発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を選択する。

促成トマト

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月中旬現在、発病株率（本年値 20.5%，平年値 5.1%）は平年より高く、発生地点率（本年値 63%，平年値 34%）は平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ③ 花落ちが悪く残った花卉や罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 薬剤散布は、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。

(令和2年1月31日発表 病害虫発生予察注意報第3号参照)

促成キュウリ

1. ベと病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月中旬現在、発病葉率（本年値 14.0%，平年値 6.5%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 40%，平年値 46%）は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、暖房、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。また、収穫終期は株の勢いが衰え、発生が増加する傾向にあるため草勢の維持に努める。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を選択する。

水稲における紋枯病の防除対策について

近年、病害虫防除所が調査している水稲圃場において、紋枯病の発生が多い傾向にあります。紋枯病は、前年のイネの病斑上に形成された菌核が圃場にとどまり次作の伝染源となるため、毎年同じ圃場で発生しやすい傾向があります。昨年、発生が多かった圃場では特に注意して対策を行いましょう。

[特徴]

前年の被害株や畦畔等の罹病雑草に形成された菌核で越冬し、伝染源となる。菌核は代かき時に水面に浮上し、株元に漂着する。気温が上昇し、株間の湿度が高くなると、菌核から発芽した菌糸が伸長して葉鞘内に侵入し始め、楕円形病斑をつくる。本病にかかると、下葉からしだいに枯れ上がり、稲の茎が弱くなって倒伏しやすくなる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 代かき時の浮遊物に菌核が混入しているので、畦畔沿いにたまったごみを取り除く。
- ② 常発圃場では育苗箱施用剤を使用する。
- ③ 窒素肥料の多用を避け、過繁茂にならないようにする。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並	3月中旬現在，平年並の発生である。
ピーマン 促成	ハダニ類	発生量：多い	3月中旬現在，平年より多い発生である。
トマト 促成	オシロイソウシ	発生量：やや多い ～多い	3月中旬現在，平年よりやや多い発生である。気温の上昇に伴って増殖が早くなるので注意する。
促成 キュウリ	うどんこ病	発生量：平年並	3月中旬現在，平年並の発生である。
	褐斑病		
	灰色かび病		
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	3月中旬現在，ミナミキイロアザミウマは平年並～やや多い発生であり，ミカンキイロアザミウマは平年並～やや少ない発生である。気温の上昇に伴って増殖が早くなるので注意する。
春 ハクサイ	黒斑細菌病	発生量：やや多い	3月中旬現在，平年よりやや多い発生である。
	白斑病	発生量：やや少ない	3月中旬現在，平年よりやや少ない発生である。
春 レタス	菌核病	発生量：多い	3月中旬現在，平年より多い発生である。
	灰色かび病		
	腐敗病		
	べと病		

大麦の出穂期が早まっています。 麦類赤かび病の防除を適期に行いましょう！

龍ヶ崎市における六条大麦、二条大麦の出穂期は、平年より7～10日早くなると予測されています(表1)。表2に、3月下旬時点での農業研究所及び病害虫防除所の調査圃場における予測出穂期と赤かび病の防除適期を示しました。予測出穂期は、今後の気温が平年並に推移した場合の計算値であり、例えば平年より2℃高く推移すると、これより3～5日早まると予測されます。気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、さらに出穂期が早まることが予想されますので、圃場毎に生育ステージを確認して、適期防除に努めましょう。

[現在の状況]

- ① 3月下旬現在、農業研究所及び病害虫防除所の調査圃場における大麦の予測出穂期は、3月下旬～4月中旬である(表2)。
- ② 予測出穂期から算出した予測防除適期を表2に示した。なお、今後の気温が平年より2℃高く推移した場合、表2に記載した出穂期及び防除適期は、3～5日早まる可能性がある。
- ③ 3月15～18日に県内の広い地域で氷点下となり、幼穂凍死等やこれによる出穂期のばらつきが生じる恐れがある。

[防除対策]

- ① 防除適期は、六条大麦では出穂～穂揃期に開花を確認した時(出穂期の3日後頃)、二条大麦では穂から蒴殻が出ていることを確認した時(出穂期の12～14日後頃)である(図)。予測される出穂期及び防除適期は麦種や播種期によって異なるため、圃場ごとに出穂状況を確認して適期に防除する。
- ② 赤かび病菌の子のう胞子の飛散好適条件は、「日最低気温10℃以上、日最高気温15℃以上の条件を満たし、湿度80%以上の日か降雨日とその翌日」である。飛散好適条件が続く場合は、1回目の薬剤散布7～10日後に2回目の散布を行う。
- ③ 薬剤を選定する際は、使用回数や収穫前日数に十分注意する。また、2回以上散布する際は、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤を用いる。

【お知らせ】

大麦及び小麦の予測出穂期及び赤かび病防除適期は、4月上旬発表予定の病害虫速報で最新のデータに更新します。防除所のホームページ等からご覧ください。

表1 農業研究所(龍ヶ崎市)における予測出穂期(令和2年3月23日発表 農研速報より引用)

麦種	品種	播種期	予測出穂期	出穂期	
				平年値	平年差
二条大麦	ミカモ ゴールデン	11/10	3/28	4/4	7日早い
六条大麦	カシマゴール	11/10	3/28	4/4	7日早い
六条大麦	カシマムギ	11/10	3/27	4/6	10日早い

表2 六条, 二条大麦の予測出穂期と赤かび病の防除適期予測(令和2年3月23日現在)

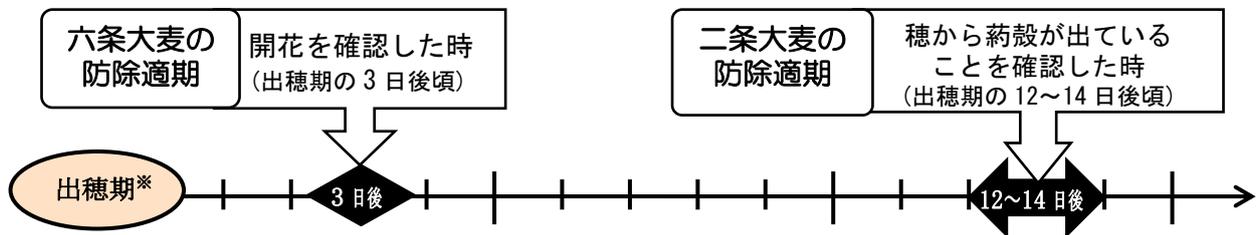
麦種	品種	地域	調査地点	播種期	予測出穂期 ¹⁾	予測防除適期 ²⁾	
六条大麦	カシマゴール	県央	水戸市上国井町	11/5	4/2 ³⁾	4/5	
			水戸市小林町	11/18	4/17	4/20	
		県南	龍ヶ崎市大徳町	11/10	3/28 ⁴⁾	3/31	
			河内町源清田	11/21	4/17	4/20	
		県西	常総市大輪町	11/20	4/9	4/12	
			筑西市伊讃美	11/15	4/9	4/12	
	カシマムギ	県西	筑西市小栗	12/4	4/15	4/18	
			県央	水戸市上国井町	11/5	4/4 ³⁾	4/7
			県南	龍ヶ崎市大徳町	11/10	3/27 ⁴⁾	3/30
			県西	八千代町高崎	12/5	4/13	4/16
二条大麦	ミカモゴール デン	県央	那珂市飯田	11/15	4/5	4/17~19	
			県南	龍ヶ崎市大徳町	11/10	3/28 ⁴⁾	4/9~11
		県西	稲敷市佐原組新田	11/21	4/6	4/18~20	
			桜川市原方	12/10	4/17	4/29~5/1	
		筑西市小栗	11/20	4/5	4/17~19		

1) 農業研究所ホームページに掲載されている「麦類主要品種の主稈長による茎立ち期, 幼穂長による出穂期予測法」の計算式を用いて予測した。各調査地点付近のアメダス観測所(日平均気温)は, 予測計算日前日までの実測値及び予測計算日以降の平年値を用いた。

2) 予測防除適期は, 六条大麦は予測出穂期の3日後, 二条大麦は予測出穂期の12~14日後とした。

3) 水戸市上国井町の幼穂長は農研速報(3/12発行)のデータを用いた。

4) 龍ヶ崎市の予測出穂期は農研速報(3/23発行)を引用した。



※出穂期: 圃場全体の40~50%が出穂した日。

図 大麦赤かび病の防除適期

チャバネアオカメムシの越冬状況（令和2年2月調査）

ナシ、カキ、リンゴなどの重要害虫であるチャバネアオカメムシの越冬数についての調査結果をお知らせします。

本年2月上旬に山林の表層土を含んだ落葉を1地点当たり30リットル採取し、チャバネアオカメムシ成虫の越冬数を調査しました。落葉の採取は常陸太田市、笠間市、水戸市、茨城町、小美玉市、銚田市、行方市、石岡市、つくば市、桜川市の合計42地点で行いました。

その結果、越冬数（本年値1.5頭、平年値2.1頭）は平年並、越冬地点率（本年値48%、平年値36%）は平年よりやや高くなりました（表）。本年を含む過去7年間の越冬状況の推移をみると、越冬成虫数・越冬地点率ともに多い年と少ない年を交互に繰り返しており、本年は多い年にあたります（図）。

そのため、越冬世代成虫の果樹園への飛来（4～7月）に注意してください。

病虫害防除所では、果樹カメムシ類について予察灯調査（4～10月）、サクラにおける発生量調査（5～6月）を行うので、今後発表する情報を参考にしてください。

表 チャバネアオカメムシの越冬状況

調査項目	令和2年2月		平年 調査値
	調査値	順位 ²⁾	
越冬数(頭) ¹⁾	1.5	5位	2.1
越冬地点率(%)	48	4位	36

1) 成虫数/落葉30リットル当たり

2) 本年を含む過去11年中の順位

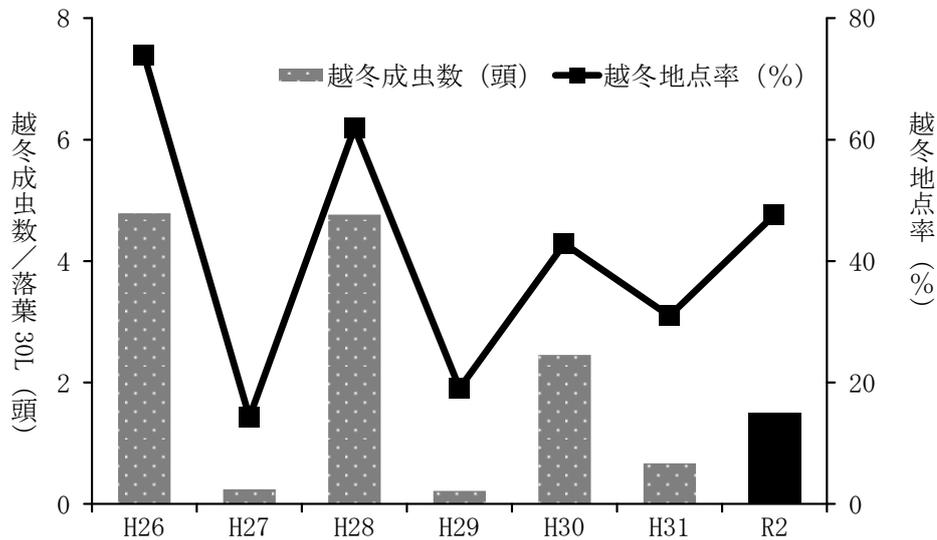


図 チャバネアオカメムシの越冬成虫数及び越冬地点率の年次変動

II. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 3月21日から4月20日)

気象庁 (3月19日 発表)

<向こう 1 か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	10	80
	降水量	関東甲信全域	30	30	40
	日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

<1週目の予報> 3月21日(土曜日)から3月27日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率80%

<2週目の予報> 3月28日(土曜日)から4月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率70%

<3週目から4週目の予報> 4月4日(土曜日)から4月17日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類* (FRAC コード, IRAC コード) の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
※作用機構分類については、病虫害発生予報5月号(平成31年4月25日発表)の防除所レポート参照
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。